

平成16年12月10日発行

発行：学校法人皇學館
編集：法人本部総務課

TEL0596・22・6308

E-mail: soumu@kogakkan-u.ac.jp

皇學館学園報

第2号

■伊勢学舎

【法人本部・大学院・専攻科・文学部】
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL0596・22・0201(代) FAX0596・27・1704

■名張学舎

【大学院・社会福祉学部】
〒518-0498 三重県名張市春日丘7番町1番地
TEL0596・61・3351(代) FAX0596・61・3350

●インターネットホームページ

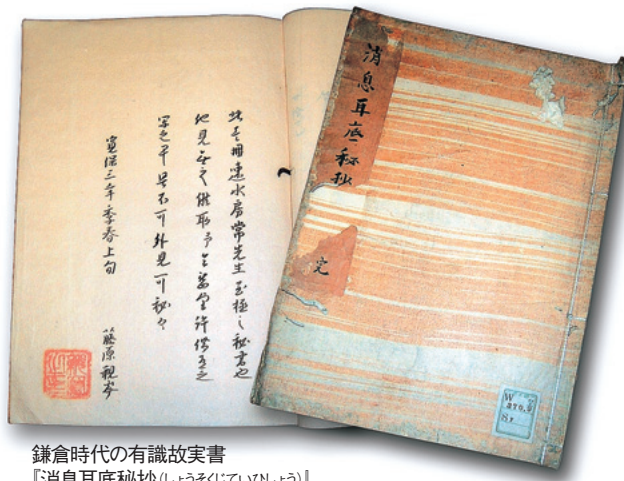
http://www.kogakkan-u.ac.jp

神宮皇學館大學の資料が 半世紀ぶりに“里帰り”

創立百三十周年・再興五十周年記念事業

和漢の貴重書が マイクロフィルムで利用可能に

神道や学問に関しても、長い歴史を誇る伊勢の神宮。その伝統を受け継いだ神宮皇學館大學の蔵書類は、学外の研究者にも重用されていた。それら蔵書類は、戦後の廃校にともない名古屋大学附属図書館へ移管され、「神宮皇學館文庫」として保存されてきたが、このほどその内の貴重な和漢の古書がマイクロフィルム化され、本学図書館に里帰る。



鎌倉時代の有識故実書
『消息耳底秘抄(しょうそくじていひししょう)』

戦前の神宮皇學館大學図書館は、神宮文庫の一部を借用した特殊な大学図書館として、研究者の間で重用されていた。昭和二十一年、本学が廃校となったとき、図書館の蔵書類は名古屋大学附属図書館へ移管された。その中でも特に貴重な和漢の書籍一万四千二百五冊が神宮皇學館文庫として貴重書庫に保管され、宗教、文学、歴史などの貴重な資料として利用されていた。

今回マイクロフィルム化を予定しているのは、和漢の貴重書一六〇〇冊。神宮皇學館の学風を形にした蔵書類

神宮皇學館文庫には、どのような書籍が収蔵されているのですか？
皇學館は、明治十五年に創立された非常に古い大学です。その時代から貴重な書籍類が蓄積されてきました。元々、神道や国文学、国史学などを研究する大学でしたから、優れた古典や史籍もたくさんあったわけですね。

その中でも神宮皇學館文庫には、例えば、江戸後期に故実家として活躍した喜米田親章の関係書類が含まれます。彼は神宮の御師であり、また寛政七年には本居宣長に入門して国学を勉強した人物です。この喜米田旧蔵書には、天下の孤本といわれるような稀覯書も含まれます。従って、これらの文庫資料は、江戸時代の伊勢や神宮の文化を探っていくうえで非常に興味深いものですね。

貴重な資料群なので、確かに他の機関にはない古書も多いのですが、ただ古くて珍しいから大事なことだけではありません。かつて神宮皇學館大學が学問研究や教育のために集めた資料群であり、神宮皇學館の学風や学問を反映した、言わば本学のルーツに関わる資料群であるからこそ、私

好意により、神宮文庫の施設の一部を借用しましたが、その蔵書の中核をなしたのは、旧神宮皇學館図書四万四〇〇〇冊でありました。この年七月、右の神宮文庫との共用図書という位置付けて借用を許可された図書を、旧書庫から借用した大学附属図書館の新書庫まで、教職員・全学生が手渡しで運搬しました。一期生にとっては、忘れ難い思い出と存じます。

神宮皇學館文庫の マイクロ化収蔵に万感の想い

学長 伴 五十嗣郎



我が皇學館大學は、明治十五年(一八八二)伊勢神宮内宮の学問所林崎文庫に創立された神宮皇學館を發祥とします。その後、次第に發展をとり、昭和十五年(一九四〇)からは官立単科大学に昇格しました。

しかるに、終戦直後の二十一年、所謂「神道指令」により廃学となりました。こと、実に悲劇の極みでありました。当時、廃学となった神宮皇學館大學の図書蔵書は、前身の神宮皇學館から移管された七万二〇〇〇余冊を母体としましたが、大学昇格後廃校までの六年間に増加した購入・寄贈受け図書

も、二万四〇〇〇余冊にのびりました。二十一年の廃学に当って、この大学昇格後の購入・寄贈図書二万四千八百五冊は、名古屋大学へ移管され、他は神宮へ返還されることとなりました。その後十余年を経過する内、皇學館大学再興の気運は次第に高まりを見せ、昭和三十四年には吉田茂元首相を代表として、財団法人神宮皇學館後援会が設立され、大学再興のための諸事業が力強く展開され始め、同三十七年四月、皇學館大學は遂に再興されました。

当初、附属図書館は、神宮当局の御

再興前、先記後援会では、名古屋大學に對して、前述の廃学時の移管図書の返還交渉を行いました。名古屋大學では、その要請には応ぜず、移管本の内、準貴重書に指定した和漢の古書一万四千二百五冊を「神宮皇學館文庫」と名付けて整理し、急遽「名古屋大學蔵書目録 古書の部第一集 神宮皇學館文庫」(昭和三十三年三月刊)を発行しました。また、本学では再興後も是非

返還交渉をすすめるべきとの意見が何度か出されましたが、遂に目的を達せざう今日に至りました。そうした従来の経緯を踏まえて、この度創立百三十周年・再興五十周年を迎えるにあたり、本学附属図書館長の日高敦夫教授が、右記「名古屋大學蔵書目録 神宮皇學館文庫」に収載の和漢古書の中から、本学の教育・研究上必要な書籍を選択して、マイクロフィルム化し、本学図書館の収蔵資料とする事業を企画されました。本学の前身神宮皇學館大學が目指した研究や教育の方向を考へる上でも重要な資料となり、それを基に新たな研究が活発に展開されることを確信して、慶びに堪えません。



名古屋大学の「神宮皇學館文庫」



文学部・高倉一紀教授

たちにとって大事なので、それだけに再興後、いく度か名古屋大学に神宮皇學館文庫の返還をお願いしてきた経緯もあります。マイクロフィルムとはいえ、今回の里帰りは本学にとって大きな意義があると言えます。名古屋大学をはじめ、関係者には心から感謝を申し上げたいと思います。

今年度中に
マイクロフィルム化

マイクロフィルム化やその整備は、どのように進んでいるのですか。現在、本学の図書館がマイクロフィルム化の事業を進めています。神宮皇學館文庫の中には、すでに名古屋大学や東京の国立国文学研究資料館によってマイクロフィルムに撮影された資料もあり、それらは両機関のマ

マイクロフィルムを借りて複写します。新しい撮影も年内に始め、来年三月までには一六〇〇点すべてのマイクロフィルム化を終え、新年度早々から図書館で利用できるように取り組んでいます。

学内外の 利用が可能に

―貴重な資料群について、どのような活用が考えられますか。

図書館で閲覧できたり、紙焼きの提供を受けられるようになり、学内外での活用が期待できます。

学内では、まずは神宮皇學館文庫の総合的な研究ですね。書誌学や神道学、歴史学、国文学あるいは教育史など、いろんな面から神宮皇學館時代の資料の特性を見ていくことができればいいでしょう。例えば教員グループで共同研究することも出てくるかもしれません。そ

は再興五十周年に向け、地域の人たちに本学をより理解していただくための事業の一つの柱として今回のマイクロフィルム化を企画しました。これからも研究成果をいろんな形で公開していきたいと思っています。図書館では、学内はもちろん地域においてもこの資料が有効に活用されるよう、さまざまなPR活動やレファレンスサービスが展開されることと思います。このように開かれた大学として、神社群・館友の方々のみならず、地域社会にも貢献をしていきたいと考えています。



戦前の神宮皇學館大學

記念事業
クロスアップ

日本の伝統的精神文化の根源を研究

神道を通じて日本文化の核心にふれる 記念学術研究事業

創立百三十周年・再興五十周年記念事業では、その一環として六項目にわたる「記念学術研究事業」が計画されている。ここでは、その内の本学附置研究所である神道研究所と史料編纂所、及び神道博物館に於ける三件の研究事業計画について、報告したい。以って、神道を中核に据えた皇學館大学の教学の使命や目的を、御理解下されば幸甚である。

神道研究所

『訓読・注釈 儀式実践 大嘗祭儀』の刊行

大嘗祭の儀式・祭祀の全貌が明らかに

大嘗祭とは

大嘗祭とは、即位儀礼の一つとして天皇が親祭される一代一度の国家祭祀。卜定された二国から収穫した新穀を中心とする神饌を神に供え、天皇も召し上がる祭儀である。

刊行の意義

神道研究所では、大嘗祭の祭儀・儀式次第、歴史とその意義を精確に理解することが、日本文化の特性と伝統をその核心において解明することとなると考え、また、それが研究所の学問的使命と自覚している。



神道研究所が刊行した書籍

大嘗祭の儀式実態については、平安時代前期の貞観年間（八七三～八七七の間）に成立した『貞観儀式』巻三・四「踐祚大嘗祭儀」に詳細な規定があり、古代の完成された儀式・祭祀のあり方が示されている。

このような観点から、研究所では学内外の協力を得て、所内に大嘗祭研究会を設けている（その淵源は昭和五十年に遡る）。同会では、「儀式 踐祚大嘗祭儀」の訓読・注釈原稿を作成・検討する

史料編纂所

『続日本紀史料』全二十巻の編纂完結をめざす

古代史研究に必須の文献

『大日本史料』の続日本紀版

文武天皇元年（六九七）から桓武天皇延暦十年（七九一）に至る九代九十五年の歴史を記した勅撰の国史『続日本紀』。『続日本紀史料』はその所収

月例研究会を積み重ね、その間、論文集『大嘗祭の研究』（五一二頁・昭和五十三年）、『続大嘗祭の研究』（七五一頁・平成元年）を刊行し、学界の評価を得た。また、一貫して継続している大嘗祭の研究

学術的特徴

本書の学術的特徴は次

に對して、私学振興財団より研究助成も受けた。神道研究所に課された学問的使命と、長年にわたり大嘗祭研究に取り組んでいる実績とを勘案して、研究所は、（仮称）『訓読・注釈 儀式実践 大嘗祭儀』（約千頁）の刊行が記念事業の一環としてふさわしいと判断した。

の二点である。
①神道・国史・国文を中心とする研究者により組織された大嘗祭研究会の長年にわたる研究会活動の成果に立脚している。
②『儀式実践 大嘗祭儀』の訓読・注釈は本書が最初となる空前の企画であり、本書によって古代の完成された大嘗祭の儀式・祭祀の全貌が理解されることとなる。

（平成十六年十一月）で一七四回を数え、すでに全巻の訓読作成と第一次検討が終了。注解原稿の作成とその検討も進められている。

皇學館関係者の健闘光る
～平成十七年度教員採用試験結果発表～
平成十七年度の三重県教員採用二次試験の結果が、十月一日発表された。本学関係者は、小学校で四十二名、中学校教員では国語六名、英語一名の計七名、高校教員でも国語・情報で各一名が結果となっている。

学園ニュース

佐川記念館神道博物館 特色ある二つの展覧会を開催

「皇學館大学の学問・教育とその軌跡」
「全国神社宝物展」

佐川記念館神道博物館では記念年である平成二十四年に向け、二つの特色ある展覧会を計画し、準備を進めている。

本学の精神的軌跡を探る

第一は「皇學館大学の学問・教育とその軌跡」（仮称）と題した展覧会。会期は平成二十二年度を

予定している。皇學館の歴史と教学の精華を、その学問・教育の軌跡を追いつながり、学内の資料はもとより学外の資料も含め展覧するものだ。

本学は大きく神宮皇學館時代と再興後の皇學館大学時代に分けられる。そこにはそれぞれの時代を代表する学問や教育があり、教師と学生との熱

宝物に日本の心を見る

第二は「全国神社宝物展」―御神宝の美と心―（仮称）と題する展覧会だ。会期は平成二十四年度（記念式典を会期初日として四週間程度）を予定している。

『続日本紀史料』

巻数	続紀巻数	収録期間
1	巻第1・2	文武天皇元・8～大宝2・12
2	巻第3・4	大宝3・1～和銅2・12
3	巻第5・6	和銅3・1～聖武元・8
4	巻第7・8	聖武元・9～養老5・12
5	巻第9・10	養老6・1～天平2・12
6	巻第11・12	天平3・1～天平9・12
7	巻第13・14	天平10・1～天平14・12
8	巻第15・16	天平15・1～天平18・12
9	巻第17・18	天平19・1～天平勝宝4・12
10	巻第19・20	天平勝宝5・1～天平宝字2・7
11	巻第21・22	天平宝字2・8～天平宝字4・6
12	巻第23・24	天平宝字4・7～天平宝字7・12
13	巻第25・26	天平宝字8・1～天平神護元・12
14	巻第27・28	天平神護2・1～神護景雲元・12
15	巻第29・30	神護景雲2・1～宝龜元・9
16	巻第31・32	宝龜元・10～宝龜4・12
17	巻第33・34	宝龜5・1～宝龜8・12
18	巻第35・36	宝龜9・1～天応元・12
19	巻第37・38	延暦元・1～延暦4・12
20	巻第39・40	延暦5・1～延暦10・12

※1～5巻までは刊行済み

ん、奉納者や携わった職人、これを護り伝えた神職など崇敬者達の篤い信仰心に支えられて、現在に伝えられた品々だ。これらは単なる歴史的な文化財ではなく、現在も篤い信仰が生き続けるなかで、大切に継承された尊い精神的宝物なのである。展覧会では神社界の御協賛のもと、これら御神宝類の名品を一堂に展覧し、日本文化と神道との関わりを中心に我が国の精神文化の一端を紹介できればと考えている。



『続日本紀史料』1～5巻

『続日本紀史料』は全二十巻の構想であるが、既に本学史料編纂所において第一巻～第五巻（文武天皇元年～天平二年）の編纂刊行を終えている。既刊の成果については高い評価を得ており、その完結が待望されている。そこで残る十五巻の編纂を急ぎ、その完結をもって本学創立百三十周年・再興五十周年記念事業に位置づけ、日本歴史学界へ寄与したい。

被災の学生らの学費など免除

～相次ぐ災害受け配慮～

本学では、台風二十一号や二十二号、新潟県中越地震によって被災した学生に対し、授業料の免除や徴収猶予などの対応を行うことを決定した。台風二十一号に伴う大雨では、県内で九人が死亡、一人が行方不明になるなど大きな被害があっ

平成17年度 三重県教員採用試験結果

校種・教科	卒業見込			卒業生			本学関係合計			県全体		
	受験者	一次合格	二次合格	受験者	一次合格	二次合格	受験者	一次合格	二次合格	受験者	一次合格	二次合格
小学校	62	15	6	239	74	37	301	89	43	881	311	160
前年度	55	7	2	233	49	27	288	56	29	776	204	103
中学・国語	9	0	0	38	9	6	47	9	6	130	30	12
前年度	10	0	0	51	5	1	61	5	1	134	15	7
中学・社会	7	0	0	16	2	0	23	2	0	157	30	10
前年度	8	0	0	29	4	2	37	4	2	177	15	7
中学・英語	1	0	0	2	1	1	3	1	1	201	70	32
前年度	0	0	0	1	1	1	1	1	1	150	45	22
高校・国語	4	1	0	21	2	1	25	3	1	99	20	6
前年度	3	0	0	16	4	1	19	4	1	85	21	7
高校・地歴	0	0	0	7	0	0	7	0	0	95	6	2
前年度	0	0	0	1	0	0	1	0	0	56	5	1
高校・公民	0	0	0	1	0	0	1	0	0	16	11	5
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	7	3
高校・情報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	7	3
前年度	2	1	0	0	0	0	2	1	0	6	4	2
高校・福祉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	2
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	2
合計	85	17	6	325	89	46	410	106	52	1,645	490	231
前年度	76	7	2	330	63	32	406	70	34	1,337	311	151

※高校・地歴と高校・公民は、前年度募集なし。